

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記
別タイトル	EDITORIAL POSTSCRIPT
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2020.06.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 67(2).
資料種別	その他
著者版フラグ	ETC
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD82500184

第 67 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬 (株)	中外製薬 (株)	乳がん領域製品
田辺三菱製薬 (株)		

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：中野裕康
 編集委員：赤羽悟美 弘世貴久 池田隆徳
 片桐由起子 近藤元就 水野雅文
 盛田俊介 内藤篤彦 南木敏宏
 佐藤二美 高橋寛 和田弘太
 編集顧問：伊豫田明 津熊久幸

(ABC 順)

編集後記

1年前に平成から令和に変わりました。この1年も大小の問題を解決しながら東邦医学会誌, Toho Journal of Medicine 誌の編集を行ってきました。令和になってすぐに大きな台風が複数回、日本に上陸し甚大な被害をもたらしました。昨秋はこれが毎年の事となるのかと心配したことと思います。令和2年が幕開けすると中国の武漢で原因不明のウイルス感染が蔓延し始めたことと耳にするようになりましたが、まだまだ対岸の火事の印象だったと思います。横浜にダイヤモンドプリンセス号が接岸してから少しずつコロナウイルスによる COVID-19 の問題が迫ってきたと記憶しています。このダイヤモンドプリンセス号の問題は多くの方々の努力で封じ込めに成功したとされています。その後、私も含め3月中旬になるとコロナウイルスを念頭におきつつも、気が緩んでいたと思います。この時期にヨーロッパやアメリカへ旅行に行った人も多くいましたし、また海外から日本への旅行者も多くいたと思います。あとで言うことは簡単ですが、あの時もう少し違った対応ができていたら、一人一人の意識が違っていたら、現状は違ったかもしれません。5月に入ってもまだ東京都では150人を超す感染者が発表されています。東邦大学でも COVID-19 の病棟が作られ多くの先生、看護師さんが働いてくれています。加えて放射線技師、薬剤師さんのみならず清掃の方々まで頑張ってくれて治療に当たってくれています。研究室からも微生物研究室、感染症研究室の方々も連日、PCR 検査を行って

くれています。私は耳鼻咽喉科医ですので何も協力は出来ておりません。医師としてもこの困難に立ち向かっている方々には深い尊敬の念を持ち、その中で自分のできること、協力できることをこなしていきたいと思っています。

なんとなく研究を行うことや、論文を書く気持ちにならない日々が続いています。今、行っている研究がまたいつか来る危機の一助となると信じて皆様も努力していただければと思います。東邦医学会誌編集委員一同、皆様からの投稿をお待ちしています。

(和田弘太)

東邦医学会雑誌 第 67 巻 第 2 号

令和 2 年 6 月 1 日発行

編集兼 中野裕康
 発行人

〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号
 東邦大学医学部本館 3 階

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎